

## —北漢山国立公園紀行—

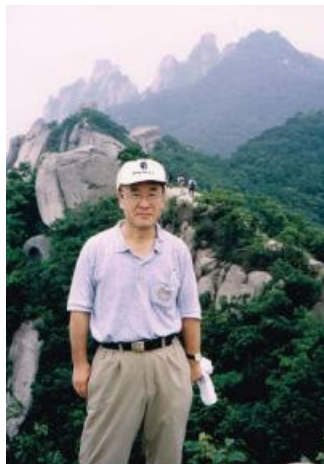
(文・写真 岡本)

八王子は登山王国である。世界一の登山者数を集める高尾山(標高 599m)があるのだから、間違いではない。2007 年ミシュランガイドで三つ星の観光地に認定された後、それまでの年間 200 万人から 260 万人、300 万人と増えた。都心から電車で 1 時間というアクセスの良さ、ケーブルカー・リフトもあってハイヒールから登山靴まで対応する整備された登山道、植生の豊かさ、霊峰富士山の眺望、古くからの修験道の霊山等々と魅力は多く、世界一の登山者を集めるのも肯ける。また、高尾山は明治の森高尾国定公園及び東京都立高尾陣馬自然公園に属し、東海自然歩道の起点でもある。

韓国の首都ソウル特別市にも、ソウル市庁舎から地下鉄、バスで 1 時間程で登山口に着くことのできる至近に北漢山(北漢山国立公園)があって、首都圏の登山愛好者を集め憩いの山となっている。北漢山という峰はなく、ソウル市北部と京畿道高陽市南部に跨る山域である。その中心部分には、白雲台(標高 836m)、仁寿峰(標高 810m)、万景台(標高 799m) の三峰が三角形を形造っており、普通北漢山といえば、最高峰の白雲台と認識されている。最高峰が 800m 程であるが、全体が巨大な、白味を帯びた花崗岩から成り立っているため岩稜線が多い。岩稜登山の故に低山にも拘らず高度感の溢れる山行が楽しめる。歴史的にみても、北漢山国立公園内には、北漢山城(注 1)、新羅の真興王巡獵碑(553 年)などがあり、他に 100 余の寺院、庵が山懐に抱かれており、歴史的遺跡の宝庫でもある。登山コースは、城壁巡り、溪流巡り、岩稜線巡り、寺院巡りなど特色あるコースが網の目のように存在する。

最高峰の白雲台を容易に登り得る人気のコースを紹介する(2003 年当時の山行に基く)。北漢山の東、ソウル市江北区牛耳洞バス停を始発とする白雲台周回コースである。韓国の国立公園内の山道は探訪路と称して路面、道標が整備され迷うことはないし、危険箇所には階段、鉄鎖が設けられている。しかし、岩稜線では無理をしないことである。探訪路に指定されたルートだけしか歩けず、外れることは許されない。

牛耳洞バス停で下車すると、すぐに緩やかな流れの牛耳洞溪谷沿いに車道を西に進む。600m 程も進むと国立公園事務所分署がある。溪谷沿いの山道は山道保護の「休息年制」のため歩行が禁止され、車道を歩かざるを得ない。やがて、バス停から 1 時間弱で駐車場のある白雲台切符売り場に着く。入山料 1300 ウオンを払う。係員よりタバコ、ライターは無いかと詰問され、持って



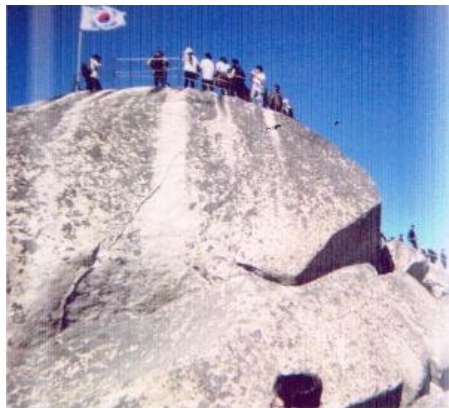
おれば没収される。国立公園への入山は厳しい。自然公園法では、鋸・斧などの道具・騒音となる器具・犬・猫などの動物・引火物質などの持ち込みや、喫煙・溪流での水浴洗濯・夜間山行・探訪路外への侵入などの行為が禁止されている。切符売り場からは本格的な山道歩きになる。疎らな雑木帯で岩がちの足元になる。カルタック峠を過ぎ、尾根のハルゼ(峠)に着くと、岩稜線となり、樹間から仁寿峰が垣間見える。ハルゼから緩やかに登り返して、仁寿避難所と山岳救助隊詰所を経由すると、右前方に仁寿峰と白雲台が迫り、その山容は、刻々と魅力的に変貌する。岩稜は大小の岩の連続で厳しくなるが、階段や鉄鎖に助けられて進む。



これから白雲台に取り付くぞという山道の辺りに、白雲山荘という恰好の休憩所がある。殆どの登山者は、ここで一息入れて元気を付ける。白雲荘はこの山域が国立公園になる前の1924年に、民間人によって始められた韓国初の山荘だが、2019年末をもって国有となり衣替えされたという。2003年当時、山荘の看板にはオリンピックマラソンの金メダリスト孫基禎(注2)の親筆「白雲山荘 孫基禎」が懸かっていたが、それはどうなったのであろうか。山荘での小憩後、白雲台に向かう。山荘から白雲台頂上までは約600mと近い。



山荘から約300m進むと、北漢山城の衛門という、最近修復された石積み門に至る。この門を潜って、北方向に岩稜を300m程進むと白雲台頂上である。岩に鉄棒が2m程の間隔で打ち込まれて鉄鎖が渡してあり、足元も岩を削り滑らないように安全策を施してあるが、頂上直下はやはり厳しい。衛門には各方面のルートから登ってきた登山者が集まり、頂上までの岩稜ルートは、数珠繋ぎ、超満員の状況で登山の趣も台無しである。頂上に長居するのは不得策と考え、韓国旗である太極旗の立つ頂上の山名碑に触って直ぐに、次の登山者に場を譲った。山頂直下の岩盤に座って眺望を楽しんだ。北方向は指呼の間にある仁寿峰が視界を圧する。仁寿峰には探訪路がないが、ロッククライミングが許されている。下界に目をやると、南方向にソウル市街地の茫洋たる眺望、さらに遠く南西方向に仁川湾の海明かりなのかキラキラとしたものが見える。



衛門に戻り、門の南を守衛するかのように控える万景台(探訪路なし)の山腹を南にトラバースして、龍岩門に至る。さらに門より北東方向に谷筋沿いに降り、1100余年前新羅末葉に創建された道せん(言偏に先)寺南大門を經由すると、直ぐに白雲台切符売り場に到着する。

脇道に逸れる。北漢山は韓国政治と切り離せない長い時代を閲している。1960年、70年代の朴正熙大統領時代、民主化勢力を抑え込み、経済発展に邁進した時代である。民主勢力の政治家は市内料亭、レストラン、ホテルで会合を持つと密告、盗聴されるので迂闊に活動できない。そこで、ソウル市から近く、登山者の多い北漢山登山を隠れ蓑にして会合を持つことが行われた。政治家だけでなくその筋に見つかるはずの人々は山を利用した。80年代においても、ホテル内の和食レストランに招待して若干機微な話をしたところ、韓国人の客は翌日その筋から電話があり、その筋が使っているホテルの部屋に呼ばれて嫌な目にあつたと聞かされたことがあると言う。このような訳で野党政治家には概して登山愛好家が多かったが、今はどうなのだろうか。



- (注1) 北漢山城=北漢山の稜線に築かれた石築山城である。百濟、新羅、高句麗の三国時代に百濟が高句麗の南進を防ぐため 132 年に初めて築かれたといわれる。高麗時代の 1232 年、蒙古進入時に山城で戦闘が行われた。その後大々的な修改築がなされたのは、李氏朝鮮時代 1711 年で、現在残っている城壁はこの時代のものが殆どである。城壁の総延長は 8.4km、復元されたものを含め 14 の門がある。
- (注2) 孫基禎=日本統治下時代に活躍したマラソン選手で 1936 年のベルリンオリンピックの金メダリスト(2 時間 29 分 19 秒、世界新記録)。韓国東亜日報が孫の胸の日章旗を消した写真を掲載して物議を醸した。